

# 組織強化への願い

## 「百尺竿頭に一步を進む」

### 努力・工夫の上にさらに尽力を



一般財団法人 日本退職公務員連盟

〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-3

☎03(3822)1216 FAX03(3824)7779

https://nikkoren.net/

E-mail: yushima@nikkoren.info

9月号 毎月25日発行

## 社会保障に関する情報

① 全世代型社会保障  
少子高齢化、ライフスタイルの多様な受け、高齢者中心の社会保障制度から、子育て、子育て世代、現役世代まで広く安心を支える療・介護・労働など社

② 後期高齢者医療制度  
無償化等である。現役世代と高齢者世

③ 労働力人口  
満15歳以上の人口のうち、就業者、休業者、完全失業者の合計を指す。学生、家事従事者など職を持たず、職を求めない者は非労働者人口と呼ぶ。一方、生産年齢人口とは、15歳以上65歳未満の年齢に該当する人口を言う

④ 我が国は高齢者の就業意欲が高い

生活していく上での収入を得るためという経済的動機が最大の要因である。一方、社会参加に対する意欲、就業意欲も高い。総務省がまとめた2019年の労働力調査によると、65歳以上の就業者数は892万人と就業者全体の67.24万人に占める割合は13.3%と過去最大になっている。

現代は、人々の人生に於ける選択肢が増え、普通なのか、何が幸せなのか、自信を持つことが難しくなっていると言われている。

「物を大切にしよう」という人生哲学を貫き通す生き方をされる針谷さんは、「子供のため」と袋作りを続けられ、毎日の健康に感謝し、

袋づくりのはじまり  
針谷さんが布袋作り始めたのは1967年、当時勤務していた小学校の1年生を担任したときであった。フタを開けて上から学用品を入れる昔の机から現在の下から入れる机に切り替わり、机からハサミやカスネットなどを落とす児童が多かった。落とし物がなくなるようにと作って配布したのが始まりである。その後落とし物はぐっと減った。当時は担当学級の児童に手渡ししていたが、やがて全学級に広げられた。

73年に学校給食が始まり、児童はマスクやハンカチやティブルクロスなどを上履きと一緒にランドセルの中に。これでは不衛生と、袋を給食袋に替えた。

83年退職を機に、時間的に余裕ができてより多くの給食袋を贈るようになった。地元幼稚園や4つの小学校、かつての勤務校など千500枚から2千枚。材料の布は自費や周囲の協力で調達する。

「園児にはピンク、1・2年生は見た目にきれいな布地、やんちゃな3年生には動物のイラストが描かれたものが多い。地域でボランティアや医療の分野で

活動するボランティアはあるが、針谷さんは御母堂の介護があり、グループで活動することはできなかった。家でできる袋づくりでボランティアに参加しようとした。

地域の老人会に袋をプレゼントした時「幸福袋」と名付けてもらったり、袋の紐や余り布をくださった友人や高齢者も増えた。高齢化する社会の中で、針谷さんの活動に手を差し延べてくださる方々の輪が広がった。

針谷さんが独自の頃、勤務校に、自宅で関病生活を送る子どもがいた。自費で絵の具や文具を買って、週に一度子どもの家を訪れ、励まし続けた行為について、「愛の女教師物語」として婦人雑誌に紹介されたことも。

草花の扱いはプロ級で、勤務校では花壇づくりの中心的役割を担い、いずれの学校も県の花壇コンクールで知事賞を受賞している。

針谷さんは来月1月で90歳、家庭菜園や花づくりの合間をみて、その日の体調に合わせて袋を縫っていること。85年前後には毎年2千500枚ほど作っていたが、最近はずっと減って少しずつ少なくなってきた。「その分愛情を込めて作りたい」と言う。

親子二代で針谷さんの袋を使う人も出てくる。「家庭の理解と協力」でここまで来た。親子三代にわたって贈り続け、子どもに使ってもらいたい」と今日も張り切って縫い針の手を進める。

今年も8月になると75年前の「終戦の日」の頃を思い出す。当時は10歳で小学生であった小生も、太平洋戦争末期、毎日のようにB29が編隊を組んで東京を目指し飛んで行くのを目撃し、涙が止まらなかつた。

「何を取ったからといって、必ず物忘れが増えるわけではない。いくつになっても頭脳明晰でかくしゃくとしている人もいます。この違いはどこにあるのだろうか。調べてみると、意外な事実が分かった。

「人間の脳細胞は年齢とともに減少し、再生しない」と、百年にわたり信じられてきた定説が覆されたのだ。

日本とアメリカの共同チームは、脳細胞に必要な栄養を与えることで脳細胞の増殖・分裂に成功したという。つまり、老化によっておとろえてしまった脳も若返るというわけだ。そこで、脳に必要な栄養として忘れてはならない

## 手縫いの袋 贈り続けて53年

### 「物を大切に、人を大事にしよう」

茨城県退職公務員連盟坂東支部の会長坂東市香掛在住の元小学校教諭、針谷江さん(82歳)

袋づくりのはじまり  
針谷さんが布袋作り始めたのは1967年、当時勤務していた小学校の1年生を担任したときであった。フタを開けて上から学用品を入れる昔の机から現在の下から入れる机に切り替わり、机からハサミやカスネットなどを落とす児童が多かった。落とし物がなくなるようにと作って配布したのが始まりである。その後落とし物はぐっと減った。当時は担当学級の児童に手渡ししていたが、やがて全学級に広げられた。

地域でボランティアや医療の分野で活動するボランティアはあるが、針谷さんは御母堂の介護があり、グループで活動することはできなかった。家でできる袋づくりでボランティアに参加しようとした。

針谷さんが独自の頃、勤務校に、自宅で関病生活を送る子どもがいた。自費で絵の具や文具を買って、週に一度子どもの家を訪れ、励まし続けた行為について、「愛の女教師物語」として婦人雑誌に紹介されたことも。

今年も8月になると75年前の「終戦の日」の頃を思い出す。当時は10歳で小学生であった小生も、太平洋戦争末期、毎日のようにB29が編隊を組んで東京を目指し飛んで行くのを目撃し、涙が止まらなかつた。

## 退公連

## 物忘れが増えたら 要注意!!

成分が核酸。核酸が主成分の健康食品を摂取したモニターと、八七五%の被験者の脳年齢が若返ったという。

早速、山岡好子さんに話を伺った。

「何を取ったからなのか?どこに置いたのか?急に物忘れが増えてきたんです。物忘れが進行してしまつた近所のおばあちゃんを間近で見ているので、次は私の番かもしれない」と、不安になったという。

そんな時に出合ったのが「脳内核酸」。

「しばらくすると頭の中の霧がスーッと晴れて、気持ちもスッキリ!買い物に行っても、計算をパパッとできるようになりました」



東京都在住 山岡好子さん(82歳)



## 「よき生き方」を 針谷さんに学ぶ

雑誌で自分の行為を賞賛されたり、数々の栄誉に浴したのが本人には一つの通過点であり、目指す目的はもつと先にあった。

「よき生き方」とは何かと考え、時代の流れや身の回りの出来事に関わりながら、生きるに値する生き方を自身の中で模索され、今後そうされたいと想

あなたの脳年齢は何歳ですか?

**脳内核酸**

核酸成分を服用したモニターの脳年齢の推移

脳年齢	服用前	服用1か月後	服用3か月後
65歳	61歳	58歳	58歳
60歳	58歳	55歳	55歳
55歳	55歳	52歳	52歳
50歳	50歳	48歳	48歳
45歳	45歳	43歳	43歳
40歳	40歳	38歳	38歳
35歳	35歳	33歳	33歳
30歳	30歳	28歳	28歳
25歳	25歳	23歳	23歳

※平成16年9月から平成16年12月の3か月間、脳年齢計アムザット(ラムダ打点法)により測定(自社調べ)

※あくまでも個人のデータですので、個人差があります。

脳内核酸

1瓶31日分目安(240mg×248粒)

6,500円 送料別途750円(税別)

※中国産の原料は一切使用していません

2か月分送料5,850円×2個(10%OFF送料別)

毎月 送料9,175円×6回(10%OFF送料別)

※送料は別途お見積りいたします。送料別送料とは異なります。

●送料は全国一律750円(税別) ※お支払い商品到着後7日以内は返品可能ですが、送料はお客様負担です。●商品の品質はお客様がご自身で確認してください。●お客様の個人情報の取り扱いについては、詳しくは毎日完結のメールマガジン「脳内核酸」にてお知らせいたします。

〒060-0002 北海道札幌市中央区北二条西2-1-1 有毎日元

